

迫害されている者は幸いです

マタイの福音書 5章 10-12節

はじめに

私がウェルカム・サンデーで説教をする時には、イエス様が語られた「幸せ」についてお話することにしています。

イエス様は、弟子たちや群衆に向かって、「**義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです**」と言われました。迫害されている者には、天国が約束されていると言われるのです。

イエス様にとっての「幸せ」は、私たちが考える「幸せ」と大きく違います。イエス様は、「心の貧しい者は幸せである」「悲しむ者は幸せである」と言われます。そして「迫害されている者も幸せである」と言われます。

私たちが考える「幸せ」は、健康であること、家族が仲良く暮らすこと、友達に恵まれること、財産が豊かであること、夢を実現すること、仕事で成功すること、であるかもしれませんが。私たちは、それらの「幸せ」を手に入れるために、あらゆる努力をします。

しかしイエス様は、心の貧しさや悲しみ、迫害の中にこそ、「幸せ」があるとされるのです。私たちにとっては、不幸と思えるような中にこそ、「幸せ」があるとされるのです。

1. 義のための迫害

「義のための迫害」とは、何でしょうか？ 11節には、「**わたしのために人々があなたがたをのしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです**」とあります。

「義のための迫害」とは、「イエス様のための迫害」と言えます。イエス様を神と信じ、イエス様に従って生きていく中で受ける迫害です。そして「迫害」とは、具体的には、ののしられたり、悪口を言われたりすることです。

キリスト教の歴史の中では、このような言葉による迫害だけでなく、暴力的・社会的な迫害もありました。1世紀のローマ帝国による迫害、日本では豊臣秀吉や徳川家によるキリシタンの迫害、第二次世界大戦の時には天皇を神とする国家神道による宗教弾圧などがありました。

現代の日本では、「日本国憲法」によって「信教の自由」が保障されているので、暴力的・社会的な迫害はありません。しかし世界では、今もなおクリスチャンが迫害されている国々が沢山あります。特に北朝鮮やイスラム教国、共産主義の国々では今もなお激しい

迫害が続いています。

現代の日本では、公の暴力的・社会的な迫害はありませんが、90年代以降、「宗教は怖い」という社会的雰囲気があるので、クリスチャンであるとか、教会に通っているというだけで、距離を置かれたり、警戒されたりということがあります。

使徒パウロは、手紙の中でこう言いました。「**キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます**」(IIテモテ 3:12)。イエス様を信じて、本当にイエス様に従って生きようとするれば、必ず迫害を受けるようになるというのです。

迫害というと、少し大げさですが、イエス様を信じて、本当にイエス様に従って生きようとするれば、必ず何らかの衝突は起こるものです。聖書の価値観は、この世の価値観と大きく違いますから、本当にクリスチャンとして生きようとするれば、家庭や学校や職場で多かれ少なかれ摩擦は起こるものです。

イエス様は愛を説いた方ですから、イエス様を信じて従っていけば、誰からも愛され受け入れられるように人になるかということ、そうではありません。イエス様ご自身も、迫害されたのです。イエス様は、病人を癒し、社会的に疎外されている人々の友となった愛の方ですが、当時の宗教指導者たちから妬まれ、憎まれ、迫害され、ついには十字架で殺されたのです。

イエス様は言われました。「**しもべは主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。人々がわたしを迫害したのであれば、あなたがたも迫害します**」(ヨハネ 15:20)。イエス様が迫害されたように、イエス様を信じ従う人も、必ず迫害されるようになると言われるのです。

パウロはこのように言いました。「**あなたがたがキリストのために受けた恵みは、キリストを信じるだけでなく、キリストのために苦しむことでもあるのです**」(ピリピ 1:29)。イエス様を信じてクリスチャンになれば、何の苦しみもなく「幸せ」になるというわけではありません。イエス様を信じるゆえの苦しみをも経験するようになるというのです。しかしイエス様は、そのイエス様を信じるゆえの苦しみの中にこそ、「幸せ」があると言われるのです。

2. 天の御国はその人たちのもの

なぜでしょうか。なぜイエス様を信じるゆえの苦しみの中にこそ、「幸せ」があるのでしょうか。それは、「**天の御国**」が約束されているからです。また「**天において報いが大きい**」と約束されているからです。

「天の御国」とは、神様がおられる所です。聖書全体は、自分の罪を悔い改めて、イエス様を信じる者は、永遠のいのちを与えられ、天の御国に受け入れられると教えています。天の御国では、私たちの魂は完全に清くされ、あらゆる労苦から解放放たれて安らぐことができる(黙示録 14:13) のです。

この天の御国の対極にあるのが、「地獄」です。自分の罪を認めず、イエス様を信じな

い者には、永遠の地獄の刑罰が待っているのです。地獄に投げ込まれた人の魂は、苦しみと完全な暗黒を経験するのです。

聖書によれば、人類最初の人であるアダムとエバが禁断の木の実を食べて、神様に背いた時から、すべての人間は神様との交わりを失い、罪の性質を持って生まれてくるようになりました。聖書で言う罪とは、天地の造り主である神様に従わないことです。神様が人間に求めておられることは、神様を愛し、隣人を愛することです。しかし人間は、神様を愛さず、神様に無関心になりました。隣人を愛さず、妬みや憎しみを持つようになりました。それゆえ、人間はこの世でのあらゆる悲しみや苦しみを経験するようになり、死んだ後には、神様の裁きを経験しなければならなくなりました。

しかし神様は、私たち人間に、ただ一つ救いの道を用意されました。それは、神の子であるイエス様による救いの道です。イエス様は、人々から迫害され、十字架で殺されました。しかし、それは神様の御計画によるものであったのです。旧約聖書のイザヤ書には、イエス様についてこのような預言が書かれていました。「**彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒された。私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。しかし、主は私たちすべての者の咎を彼に負わせた**」(イザヤ 53:5-6)。

イエス様は、私たちの罪を背負って十字架で死なれました。神様は、私たちを裁く代わりに、イエス様を裁かれました。私たちの罪のための身代わりの死、それがイエス様の十字架の死です。イエス様は十字架において、私たちのすべての罪を償ってくださったのです。

私たちにとってただ一つの救いの道は、自分の罪を認めて悔い改め、イエス様を神の子、自分の救い主として信じ受け入れ、イエス様に従っていく決心をすることです。これ以外に、私たち人間に用意されている救いの道はありません。これ以外に、天の御国に受け入れられる道はありません。

私たちには今、神様から救いの道が用意されています。誰でもそれを受け入れるなら、今、救われ、天の御国に受け入れられるのです。

イエス様は、「義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです」と言われました。私たちは、イエス様を信じた後、天の御国に行く日まで、地上の旅路を歩まなければなりません。その間、私たちは不安になるかもしれません。自分は本当に、天の御国に行けるのだろうか。自分の罪深さを思えば思うほど、不安になります。

しかしイエス様は、イエス様のための迫害こそ、天の御国が約束されていることの何よりの証拠であると言われるのです。私たちは、イエス様を信じてクリスチャンであることで、距離を置かれたり、警戒されたり、家庭や学校や職場で多かれ少なかれ摩擦や衝突を

経験します。それは、私たちにとっては辛く苦しいことでもあります。しかしイエス様は、その辛さや苦しみこそが、天の御国が約束されていることの何よりの証拠だと言われるのです。その辛さや苦しみこそ、あなたが本当にイエス様を信じ従おうとしている何よりの証拠だと言われるのです。クリスチャンであることを隠し、この世の価値観に流され、この世に妥協して生きているなら、何の摩擦や衝突も起こらないでしょう。イエス様のための辛さや苦しみも味合わないでしょう。しかしそれでは、天の御国が約束されている確信を持つことはできないのです。

おわりに

イエス様にとっての「幸せ」は、天の御国を確信して生きることにあります。どんなに地上の生涯で、健康で、家族が仲良く暮らして、友達に恵まれても、また財産が豊かで、夢を実現し、仕事で成功しても、死んだ後に地獄の刑罰が用意されているなら、また死んだ後にどうなるのか不安であるなら、何の意味があるのでしょうか。

天の御国を確信して生きることこそ、私たちの魂に、真実の平安と喜びを与えるものです。イエス様を信じ、従って生きることこそ、天の御国を確信して生きる生き方です。それこそ、私たちに「幸せ」をもたらすものなのです。

天におられる主なる神様。

私たちは「幸せ」を求めて生きています。誰もが幸せになりたいと思って生きています。しかし私たちは、何が「幸せ」であるかが分からなくなってしまいます。

イエス様は、天の御国を確信して生きることこそ、「幸せ」であると教えておられます。イエス様は、私たちに天の御国の道を開くために、十字架で死なれました。私たちは、自分の罪を認めて悔い改め、イエス様を信じ従って生きます。どうか天の御国を確信して、真実の平安と喜びの中で地上の生涯を歩ませてください。イエス様を信じ従って生きることのゆえに起こる摩擦や衝突の中でこそ、天の御国を確信することができますように。今もなお世界の中で迫害の中にいるクリスチャンたちを守り、その信仰を支えてください。この祈りを、私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。